

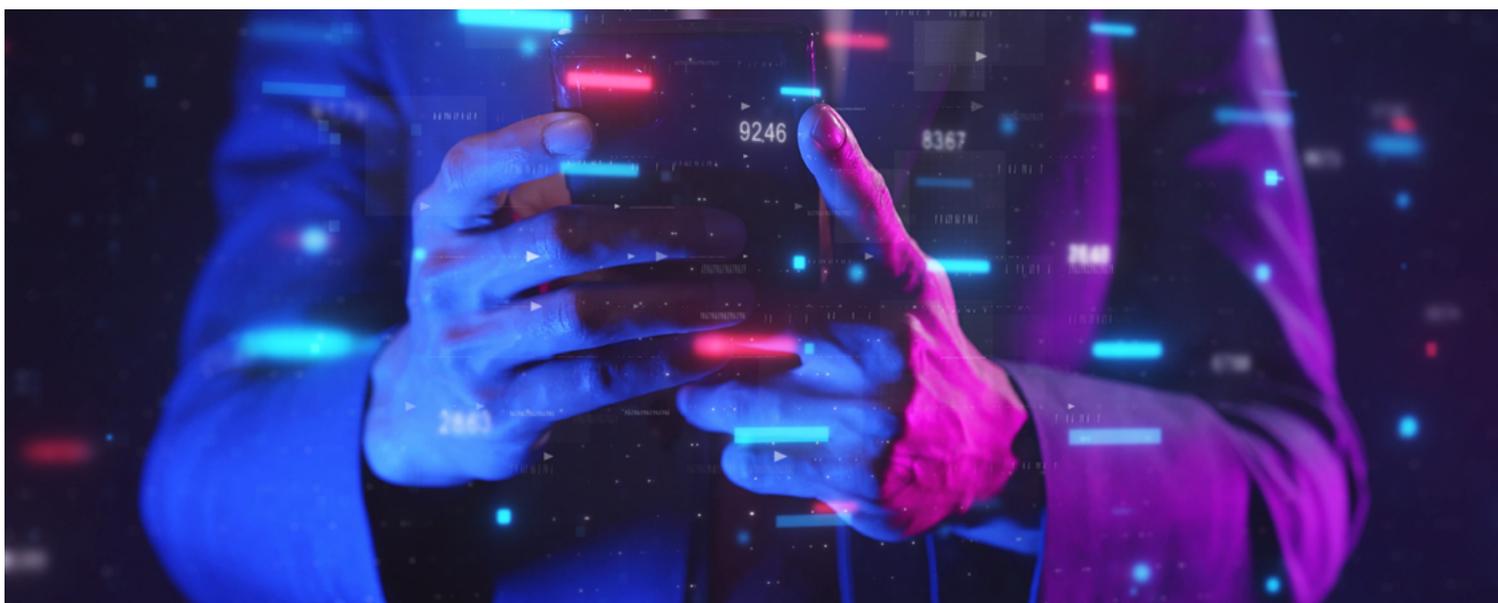


活用事例

MDAの 「d'Conference」 と「d'Gala Night」

「マレーシアのデジタル業界を促進する」というMDAの使命

状況やペースが常に変化し続けるデジタル業界において、マレーシアデジタルアソシエーション(MDA)は、デジタル業界の団結と未来への道標を象徴する団体として存在しています。Sin Chew、Astro、Google、Omnicom Media Groupなどのメンバーを迎えて2009年に華々しく設立されたこの団体は、「マレーシアにおけるデジタル業界と一緒に促進していく」という使命を掲げて誕生しました。



相乗効果の調和

MDAの使命は、団体内だけで達成を目指すものではなく、代理店、技術者、コンテンツクリエイターなど、デジタル環境であらゆる役割を持つ人々と提携しながら目指すものです。MDAは、マレーシアのデジタルエコノミーを明るい未来へ導くために、さまざまなアイデアが集結する「るつぼ」のような場所です。

種から森へ

MDAは、ある一つの使命から、活気あふれるコミュニティへと成長しました。MDAには、**60以上の組織**、**15,000人以上の専門家**を擁し、**国のデジタル広告収入の70%以上**を誇っています。この数字からも、MDAに周囲を引き込む魅力があり、絶え間ない成長を続けていることがわかります。MDAは、単なるグループではなく、創造性と革新性を生み出し続けている一種のムーブメントなのです。

60
組織数

15,000
専門家数

5つの柱

成功への法則

1. 政府との連携

政府役員の重視や官僚主義を推すのではなく、何かの行動を起こすために政府と絆を築くことは大切なことです。広告コンテンツ政策の形成や、MDECやCMCFのような団体との協力にあたり、MDAはコラボレーションこそが変革の鍵であることを証明してきました。

2. ガラナイトとカンファレンス

レッドカーペットやスピーチも印象的ですが、これらのイベントは、アイデアを閃き、人間関係が花開く場所でもあります。そして、デジタルカンファレンスは、単なるイベントではなく、有名な技術者が参加者にインスピレーションを与える「体験」の場所でもあります。

3. 提携とコラボレーション

提携とコラボレーションこそ、MDAが最も輝く分野です。MDECとのコラボレーションは単なるパートナーシップではなく、芸術的ともいえる効果を発揮しました。助成金や、デジタル課税問題、カンファレンスなどは、構想だけに終わらず、夢と勝利を分かち合うための通過点に過ぎません。

4. コミュニティとネットワークの構築

デジタルウェンズデー、MDAスクール、人材開発イニシアチブなどは、プログラムではなくポータルとしての役割を果たしています。MDAは、これらを通じて人々をつなぐだけでなく、情熱に火をつけ、成長を促し、コミュニティを形成しています。

5. 変革と人材の表彰

MDA Digital Awardや、BytePlusスポンサーシップなど、これらは単なる表彰やスポンサーシップではなく、マイルストーンとしての位置を占めています。これらは、成果の卓越性を強調し、創造性をさらに駆り立て、現在を鼓舞し、未来を形成するためのものなのです。

MDAは、明確で焦点を絞った使命を掲げ、業界内で影響力のある団体です。単にトレンドを追うだけでなく、積極的にトレンドを創造し、影響を与えようとしています。戦略的な取り組みと入念に計画されたイニシアチブを通じ、MDAは単なる業界参加者としてではなく、マレーシアのデジタル環境の形成と発展に大きく貢献する存在としての地位を確立しています。



MDA d Conferenceとガラナイト

パンデミック後のデジタル環境における 重大な集会

1

パンデミック後の集会

このイベントは、特にパンデミック後の大規模なデジタル業界における重要な集まりとなりました。業界のメンバーは、一堂に会し、互いに学び合う機会が切望されていました。

3

功績を称える

カンファレンスと並行して行われたアワードでは、メンバーおよび非メンバーの並外れた功績を称え、デジタル経済発展のための努力を称えました。

5

イノベーションに注目

イベントでは、デジタルマーケティングのトレンド、データの活用、AIなどの新技術、eゲーム、持続可能性、サブスクリプションエコノミーなど、さまざまなデジタルマーケティングスペースとの関連性などが議論されました。その目的は、デジタル環境におけるイノベーションを促進することでした。

7

「新興」が全体のテーマ

今回のカンファレンスのテーマは「新興」で、複数の小さな要素が相乗効果を発揮して、より知的なエコシステムを生み出すことを目指しています。これは、デジタル環境のさまざまな側面に関する知識や展望を共有したいという業界内のニーズを満たすものであり、長年の懸案であったと考えられています。

2

コラボレーションと知識の共有

カンファレンスは、技術パートナー、マーケティング担当者、代理店、デジタル業界のリーダーたちが互いに学習・共有するためのプラットフォームを提供しました。このイベントは、コラボレーション、業界の専門家からの学習、デジタル経済の推進を目的としています。

4

参加者の記録

カンファレンスには約450名もの参加者があり、デジタル業界についてより深く学ぼうとする関心の高さが浮き彫りになりました。「d Awards」も過去最高の応募数と出席者数を記録し、デジタル経済を推進する市場の真剣さを反映しています。

6

BytePlusを利用したLIVE配信の体験

BytePlusとのパートナーシップにより、物理的な来場者数だけでなく、より幅広いリーチが可能になりました。BytePlusのLIVE配信ソリューションは、シームレスなバーチャル体験を提供し、物理的に参加できない人もバーチャルでイベントに参加できるようにしました。

BytePlusとMDAの組織的なコラボレーション LIVE配信の成功事例



「MDA d conference」とガラナイトの成功のために、BytePlusと提携することは、MDAにとって重大な決断でした。テクノロジーの役割がかつてないほど重要になっている現在において、イベントの影響力を増幅させるために適切なコラボレーターを選ぶことが最重要事項でした。そんな中、BytePlusの技術革新に対する評判とデジタル技術の専門知識が、MDAのイベントビジョンと完全に一致しました。このコラボレーションにより、このカンファレンスが単に業界の進歩を振り返る場となるだけでなく、業界を新たな成功の領域へと押し上げるプラットフォームとなることが保証されたのです。このコラボレーションを通じて、学習や、成長、そしてテクノロジーを活用してより有意義なつながりと体験を創造するという共通の使命のために、両者が全力を注ぎました。

急速に変化するデジタル環境の中で、LIVE配信は、視聴者をつなぎ、惹きつけるための重要なツールとなっています。BytePlusとMDAのコラボレーションは、適切なテクノロジーと専門知識を活用することで、イベントを新たな高みへと引き上げることができることを証明しました。BytePlusのイノベーションと綿密な計画を通じて、従来のイベント運営を魅力的で没入感のあるデジタル体験へと変える手助けを提供したのです。

技術の専門性

BytePlusとのコラボレーションは、LIVE配信の技術的な必要性に深い理解があったことが特徴として挙げられます。MDAは、BytePlusの全面的なソリューションに満足し、次のように述べています。

「BytePlusのソリューションは、徹底的なものでした。BytePlusのために我々が行ったのは、インターネット回線のセットアップぐらいで、他には特に必要な作業はありませんでした。」



ウィング・タク氏 (副組織委員長およびMDA評議会メンバー)

共通の認識と迅速な同意

MDAとBytePlusの目標が一致したことは、コラボレーションの成功の礎となりました。MDAは、BytePlusの積極的なアプローチを高く評価し、次のように述べています。

「BytePlusは、顧客が達成したいことを正確に把握しているため、主催者側にとっても提携が簡単で、非常に迅速に相互合意を得ることができました。」



リアルタイムのやり取りによるエンゲージメントの強化

MDAが特に感心したのは、BytePlusのリアルタイムなエンゲージメント能力でした。MDAは、視聴者とのLIVEインタラクションに重点を置いていたため、自分たちのカンファレンスをより魅力的なものにする大きな可能性をそこに見出したのです。

新たな学びと成長

BytePlusとのコラボレーションからMDAが得た重要な気づきは、LIVE配信の影響力でした。「今回学んだ重要事項の1つは、すべてのイベントのLIVE配信を開始すべきだということです。BytePlusの評価は高く、BytePlusを利用することで、MDAは州境を越え、全国にリーチできるようになりました。」とMDAはコメントしています。



順位	国	回数	長さ(分)
1	マレーシア	928	7271
2	シンガポール	219	874
3	中国	51	28
4	インドネシア	11	14
5	オーストラリア	7	0
6	ベトナム	3	0
7	韓国	7	8

改善と今後の可能性

BytePlusとのコラボレーションとこれまでのLIVE配信の経験を比較した際、MDAは、テクノロジーとプラットフォームが著しく改善されていることを発見しました。BytePlusの高度な機能とバックエンドの分析により、よりインサイトに満ちたエンゲージメントの追跡が可能になりました。このことから、MDAは、よりインタラクティブな体験を作る機会のために、今後もBytePlusとのコラボレーションを継続することを検討しています。



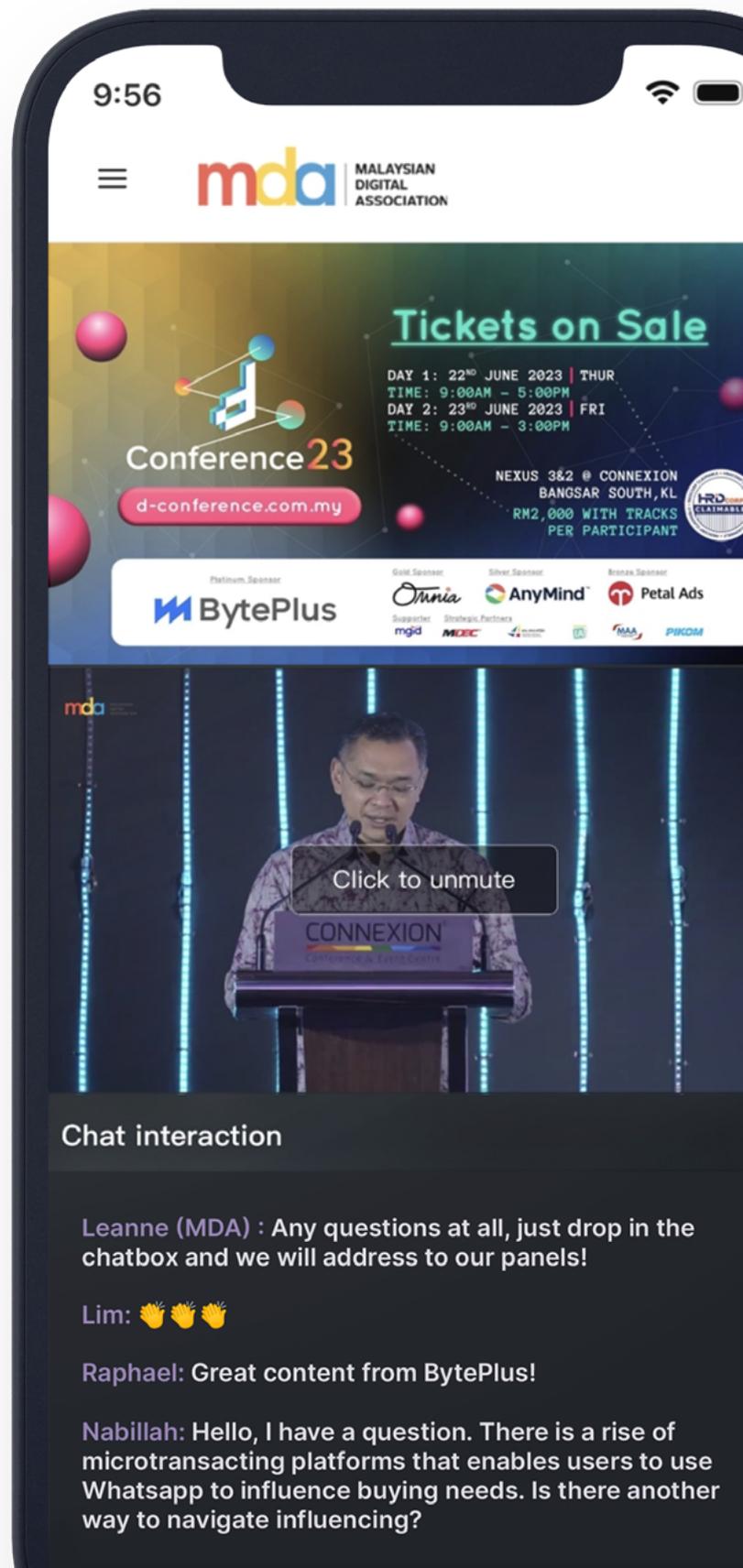
BytePlus MediaLiveのソリューションを通じたリアルタイムのエンゲージメント

「d Award」および「d Conference」の組織委員長であり、MDA評議会のメンバーであるタン・リー・チン氏は、リアルタイムのエンゲージメントを通じてLIVEイベントを向上させるチャンスを見ました。あるカンファレンスのLIVE配信中、リー・チン氏はステージ上で起きていることの配信だけに焦点が当てられていることに気付いたのです。イベント参加者は質問を投げかけていましたが、バーチャルオーディエンスと直接的なエンゲージメントは行われていませんでした。

そこで、リー・チン氏は、このエンゲージメントをオンラインの視聴者も対象にすることで、このカンファレンスをさらに魅力的にできると考えました。LIVE配信のオーディエンスからの質問の数々は驚きのもので、別レベルのエンゲージメントの機会を逃がしていたという事実を浮き彫りにしました。

この発見から、BytePlusとのコラボレーションが決定し、BytePlus MediaLiveが導入されました。バーチャル空間にいる参加者からのリアルタイムのコメントや質問を取り入れることで、イベント内で物理的なスペースとバーチャルなスペースにシームレスなつながりが生まれ、イベントはよりインタラクティブな体験へと変化しました。

このことから、リー・チン氏の洞察力とBytePlus MediaLiveの機能が、LIVEエンゲージメントの強化に貢献したことが証明されました。このソリューションは、直近のニーズを満たすだけでなく、今後イベントを展開する際の良い前例となり、デジタルマーケティング分野でより多くの視聴者とエンゲージできる可能性を示しました。





MDAとのパートナーシップは、適切なテクノロジーパートナーがいれば、組織が視聴者にリーチし、エンゲージする方法を再構築できることを証明したのです。BytePlusは、相互の理解、技術の習得、リアルタイムのエンゲージメント、そして継続的な成長を重視しており、LIVE配信イベントの新たなスタンダードを確立させます。BytePlusとのコラボレーションは、現状の改善だけでなく、今後さらに刺激的でインタラクティブな体験を提供するための土台を築ける「きっかけ」となることでしょう。